

社会福祉法人 塩谷福社会

令和7年度(2024 年)度 事業計画

令和 7 年 3 月発行

令和7年度 事業計画（各事業所）

理事長 川原静雄

事業部 障害福祉サービス課	
せせらぎ（宿泊型生活訓練）	
利用率を維持する 個別プログラムの向上を図る	利用導入を適切かつ速やかに進める。 体験利用時のアセスメント（せせらぎサービスと本人のニーズの合致や適性）を適切かつ速やかに見極め、短期間での利用導入を図る。 個別支援計画一連の流れを改善（新様式の導入等）する。個々人のニーズに合わせた処遇方針により個別化された支援プログラムの向上を図る。
目標利用率 （実績は R6 第3四半期）	80%以上（平均11人以上） R6 実績 77%
せせらぎ（日中生活訓練）	
本人のストレングスを生かした支援プログラムづくりを行なう	昨年度導入できなかった自立評価支障指標（SIM）を導入し、より効果的な支援プログラムの展開を図る。本人のストレングスを生かした支援プログラムを作る。 個別支援計画一連の流れを改善（新様式の導入等）する。
目標利用率 （実績は R6 第3四半期）	100%（平均10人） R6 実績 112%
青葉（就労継続B）	
参加型就労継続支援の実施 塩谷公園計画の推進	クラブハウス（注）的な運営を方針とし、各々が役割を持ったメンバーの居場所的な空間を創造する。 法人より作業を受託し塩谷公園計画を推進する。 個別支援計画の一連の流れを改善（新様式の導入等）する。
目標利用率 目標工賃 （実績は R6 第3四半期）	90%以上（平均9人以上） R6 実績 96% R7 目標 10,000 円 R6 実績 9,800 円
（注）クラブハウスモデルとは、スタッフと利用者が対等なパートナーとして協働する集合体であることを意識する共同体の形。	

グループホーム幸ほか（共同生活援助）	
物件の集約化・支援体制の効率化を図る	立地条件の悪いG Hの集約化を進め、効率化・集約化を進める。近郊に集合型のグループホームを模索する。 職員の異動等により、業務の分担に偏りや整理ができていない部分がある。職員の配置体制や役割分担についても再考し改善を図る。 個別支援計画の一連の流れを改善（新様式の導入等）する。
目標利用率 (実績は R6 第 3 四半期)	90%以上（平均 39 人以上） ※R6.12 月定員 55 名から 43 名に変更 入居者実数 36 名（R6.2 月末現在） R6 実績 79%（平均入居者数 34.2 名）

ワークメイト（就労継続 B）（合同庁舎食堂・開発局食堂・マイウェイ就職チーム・デイ活動）	
利用率の維持と向上 収支均衡を目指す	令和 6 年度にかけて回復した利用率を安定化させるため、100%以上を目指して利用者の受け入れを行う。また、就職を目指すマイウェイチームでは就職の達成と受け入れを行っていく。 人件費・経費を賄える収支均衡を目指していく。
サービスの維持	高賃金を得る事業所として現在の食堂委託を続け、利用者が豊かに生活できる就労を提供する。利用率の高いデイ活動で利用者の健康を目的とした作業に取り組む。必要に応じて介護保険や医療機関との連携を行う。
デイ活動の維持・作業場の改善	デイ活動では現在の利用者が安心して作業ができるように作業場の改善を行う。稲穂地区の近辺で活動できる物件を模索する。
目標利用率 目標工賃 (実績は R6 第 3 四半期)	100%以上（平均 20 人以上） R6 実績 99% 食堂運営 月平均 9 万～12 万円 R6 実績 107,586 円 マイウェイ売店 就職 2 名 R6 実績 1 名（3 月現在） デイ活動 3,000～5,000 円 事業所全体で一人平均 45,000 円を維持する。

相談支援事業所やすらぎ	
計画相談数の維持管理 利用者への適切な支援	精神障がいに特化する相談支援事業所として、退院の支援や精神障がい者の地域生活に必要な相談を主に受け入れる。他の事業所とも連携し計画相談の受け入れ数が過多にならないようにする。
小樽市障がい者支援協議会 (福祉行政) への参画	小樽市障がい者支援協議会と、同会の地域生活サポート部会に所属し福祉行政に参画する。
計画相談支援	担当は相談員 1 人あたり 6 か月平均 39 人以下とする
地域活動支援センターやすらぎ	
地域交流と相談の場所の設置	長橋と稲穂の交流室を利用して交流と相談の場所を作る。週 1 回程度レクレーションを開催し、仲間と楽しく過ごす時間を提供する。
ひきこもり等潜在的なニーズ、困難事例への支援	福祉サービスにつながっていないひきこもり状態の方やその家族に対する相談、支援を小樽市の福祉総合相談室たるさぽと連携して行う。 月 1 回の家族相談会を行う。
精神障がいやひきこもりに対する地域への理解啓発に努める	小樽市の重層的支援体制(注)に参画し、課題を抱える当事者・家族の社会参加と地域づくりに取り組む。 緊急・困難なケースへの専門的な対応を行う。
定員規模	1 日平均 20 名程度
(注)小樽市の重層的支援体制整備事業は令和 6 年度より実施。高齢化、8050 問題、生活困窮、ひきこもり等、多様な課題を抱える家庭への包括的な支援連携を行う取り組み。福祉総合相談室たるさぽと地域共生コーディネーター(北海道済生会が受託)が調整役となっている。	

社会福祉法人 塩谷福社会

令和7年度(2024 年)度 事業計画

令和 7 年 3 月発行